

# 「むだをなくそう」大きな輪に せび、都市宣言を

市連合婦人会（浜田弥芳会長）の第十六回市政会議は二月二十二日、市役所大会議室に市内各地区の婦人代表約六十人を集めて開かれた。当日は小笠原市長、吉本・国沢両助役ら市執行部、徳橋副議長ら市議会議員六人も出席。

午前中は各地区の婦人からとったアンケートをもとに市政についての質問、午後は「無駄をなくする運動」について参加者全員で熱心な討論、ソフトムードのなかにも、婦人らしいきめこまかな質問が出されました。

## 「対外的」が肝心 男性側に抵抗が

まず浜田連合婦人会長が「農協婦人部と連合婦人会が中心となって、むだをなくする運動」に取り組んでいますが、微力のため一向に広がりがありません。今日は市政への要望は少なく、この運動を市民ぐるみの運動に発展させるためみなさんの活発な意見をお聞かせください。」と開会のあいさつ。このあと小笠原市長から「市政のみならず、職員のみならずの協力により、少しずつ市政が軌道にのりつつあります。今日の会を通して市政に対する理解を深めていただくため、どしどしご意見を伺えたい。」とあいさつがあり、議題に入りまし

■私の部落ではお見舞い、お祝い全部五百円、お返しは一斉しないことにしています。こんなことは一部落でも徹底しない。今日は各部落から集まっているので徹底的に研究して、市としてのあり方もはっきり決めてほしい。

■お返しは必ずいぶん前から言われておりみんなも知っていると思うが、自分の家から始めるということとはなかなかできない。お返しをする代わりに、恵まれない施設へ寄付してはどうでしょうか。

■わざわざお見舞いにくてもうっ

## みんなの頭には 「引き出物」

■あそここのお祝いに行ったら引き出物があるからいくらしょう、うちでは引き出物がないから少なうしよう、引き出物が引き合いになつて祝儀の額が決まる例が多い。病氣見舞いのお礼を伺いしうか

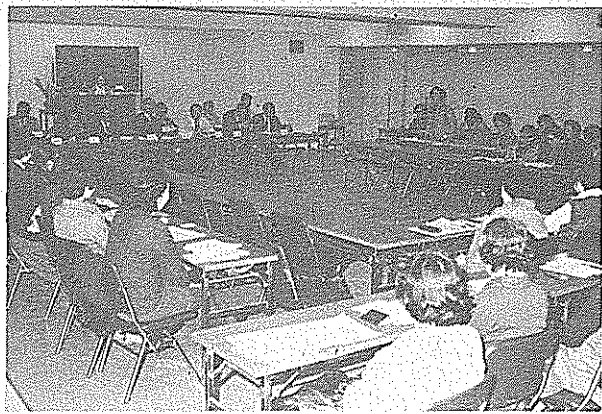
と、入院した日から考えている人もいます。まず引き出物をやめたら自然に祝儀の額も少なくなってくるのではないのでしょうか。一番みんなの頭にあるのは引き出物のことです。

■我々の生活全体がはでになつてきているのは確かです。昔は公民館結婚がよく言われていたが、今はすっかり影をひそめた感じもする。わざわざ高知市まで行って何百人も集めたはでな結婚式をやっている。大きな結婚式になると祝儀も多額になるし、引き出物もやらなくてはならない。結婚式のあり方ももう一度考えてみる必要があります。

■病氣見舞いは部落で五百円に決めているが、特に親しい人なのでこっそり千円入れて行ったことがあります。後で聞くと五百円の人一人もなく、ほとんどの人が千円、二千円の人もだいたいあったとのこと。約束はしていても中身はわからないのでなかなか難しい。

■「おきやく」に行つて五百円ではどうも食べにくい。こっそり千円にしたことが私もあります。

■五百円では食べにくい、飲みにくいというはその人の気持だけであつて、決めたらその線をくずさないということに決めることの意味がある。どこか家で喜びごと、悲しみごとは現在なくても一



時の貸借関係をおびていると思つたので、これにこだわることはないと思います。

## 『南国市』に 大きな期待

■ほんとうに虚礼廃止を徹底させよう、金額を千円にしようということがこの会で決まれば課長会、その上の議員さんをお願いして、議会でも決めていただき、南国市はこうなりましたというのを新聞や広報で徹底して、虚礼廃止の宣言都市のようになったら、むだをなくそうの封筒も生きてくる。この場だけでなく、もつと上へ、県下の徹底してください。

■今井議員、議会を取り上げるといった問題でないと思います。部落なり、婦人会なり、いろいろの場で話し合われ納められたものならいいですが、おしつけになつていけない。その点運動をして進めていくことで申し合わせはできませんが、これを議会が全体の取り決めにするのはちよつと無理があるように思います。

■大方町では昨年十一月に町議会が「むだをなくする町」を宣言しているそうです。

■浜田（健）議員、社会運動として進めていくのが本質であり、行政レベルでどうしようという問題でな

い。宣言をしてもあまり効果が上がらないかと思つています。社会活動、婦人活動としてだんだん成果を上げていく方法が一番いいのではないのでしょうか。

■議会という言葉を出すとすぐ議決へもつていかれてしまつていきます。課長さん、議員さんこそこの運動に協力していただけるものと思つて発言したのですが、長い間婦人会がやってきたがなかなか実行できなかった。それには男性の抵抗があつたということ、せめて市の議会側から率先してやってほしいというのが本音です。

■今井議員、虚礼廃止には全面的に賛成です。運動を進めていくために協力していきたいと思つています。何年も前からこの問題に取り組んでいますがあまり広がりがなく、一般の人にも意見を聞くと、やはり大きな立場で地域ぐるみでやる方法をとってほしいとの声が多分。そこで、市から盛り上げていただいて、できれば議会でも市宣言でもしてもらえたら、あ

ような抽象的な宣言はあまり意味のないことだと思つています。このようわかりきつたことが守れないというのにはほんとうに残念です。ただ宣言というのでなく、もう少し中身のある具体性のある宣言は行つたらいいのですが、とりあえず職員に対する通達、申し合わせを行いたいと思つています。

■なぜこの都市宣言にこだわるかという、封筒の中にもむだをなくする運動を推進していることを書いて入れると持つていきやすいが、南国市にはこれがないということです。現在、高知県の六者婦人団体が「高知県むだをなくする運動推進委員会」と書いた小さな紙を封筒に入れるようにしている。「南国市むだをなくする運動推進委員会」、この「南国市」にみんなが大きな期待を寄せている。ただ軽い気持ちで宣言してはいいというのではありません。

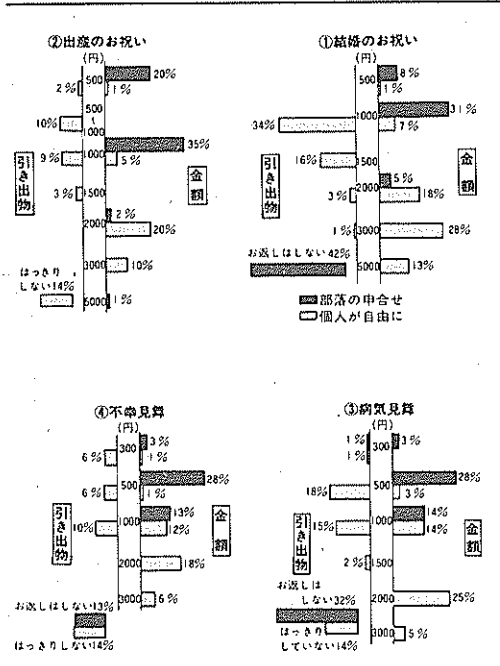
■助役、都市宣言のことは今後の問題として、市としても検討していきたい。

■管理課長、課長会として、職員全体に呼びかけて、みなさんの意にそうようにもつていきたい。

■なお市政についての話し合いでは、道路、チリ袋、水害対策、職員への要望などたくさん意見が出されました。

## 「むだをなくする運動」アンケートから

- 問1・あなたの部落では祝儀、不祝儀の金額を——  
きめている（61%）きめていない（39%）
- 問2・その金額はいくらですか。  
他人とのつき合ひの場合。  
（グラフを参考に）
- 問3・無駄をなくする運動の一つとして各婦人団体がすべてのお返し廃止運動をすすめています。知っています（66%）知っているが実行していない（24%）知らない（10%）
- 問4・農協婦人部で作成した運動の主旨が記入された全封筒を——  
使用している（56%）ときどき使う（22%）使いたくないのでそのままになっている（4%）
- 問5・使いたくない理由は——  
豪華な婚礼とかあまり親しくない方、親戚などへは少し軽少な気がして使いたくない。  
運動の主旨は充分理解しているが、あまりにもみんなに徹底してないので気がひける。皆が力を合わせこの運動の論を広げてゆきたいと思ひ協力します。  
物価の上昇と中味の金額があまりにもかかはなれると使いたくない。誰れでもあまり気がひけず持つていけるよう、その時々物価とにらみ合わせてきめてほしい。
- ※このアンケートは百五十世帯を対象に実施。回収は百十六世帯。



きょうの話題・あすの話題